

壊れゆく“若者たち”

『File.38 デジタル症候群～WeChatとインフラの進化を憂う』

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

WeChatというアプリをご存知でしょうか？中国版のLINEのようなメッセージアプリです。

WeChatは実に6億人が利用しています。ユーザー数を比較するならば、Twitter利用者が世界で約3億人、LINEは約2億人であり、その規模の大きさが窺えます。中国国内では、規制により基本的にLINEやTwitter、さらにはGoogleやFacebookが利用できません。ゆえに国内では、コミュニケーションツールとして、多くの人がWeChatを利用しています。

最初はコミュニケーションツールとして普及したこのWeChatですが、その後決済インフラが紐付いたことから、とても便利なツールに変化しました。WeChat Paymentはデビットカードの仕組みを通じて、自分の銀行口座と連携しており、全ての買い物がWeChatで行えるようになっていきます。

国内のあらゆる決済に利用されるようになった背景には、スマホの爆発的な普及と、中国国内では偽札が横行しているという背景があり、このWeChat Paymentのほうが手軽で安全なのです。QRコードさえあれば、店舗も専用の端末を準備することなく決済を行うことができ、相手が店舗でも個人でも、全ての購買行動がWeChatで完結するようになっていきます。友人



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
株式会社クロス取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
beecall1031642012088
[http://www.beall.jp]

間のやり取りにも有効であり、お互いの携帯電話にQRコードを送り、支払いを割り勘にできたりする機能も持っています。そればかりか衝撃的なのが、屋台の支払いやお寺の賽銭箱、結婚式のご祝儀にまでWeChat Paymentのご祝儀が利用されているということです。日本においても神社のお賽銭に電子マネーを利用できるようなった取り組みがありますが、まだまだ賛否両論です。

日本人は風情を大事にし、お金を払うという行為についても神聖なもの・ご利益のあるものに対しては礼儀や作法を重んじます。この全てを電子化することは



意に反することであるといえます。この価値観と、社会の進化、そして他国からのインフラの波が今後どのように混ざりあっていくかが気になることです。

日本人の日本人らしさを大事にするなら、決してこのような形が広がることは喜ばしいことではありませんが、時間とともにこのような社会になっていくことが考えられます。そうなると、この電子化に抱く嫌悪感は、時代の進化からしたる古い感覚と変わってしまうのかもしれない。電子化されても「心」は失いたくないものです。